

評価項目ごとの意見等及び今後の手立て

評価項目	学校関係者委員からの意見	意見等に対する今後の手立て
1 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・各科のカリキュラムポリシーは素晴らしいと思うので、この理念に到達できるような教育をしていただきたい。 ・職員による平均評点は昨年度と同様、5点満点中4.7点と極めて高い評点であった。これは毎年、「評価のための評価」に堕することなく、学校経営に係る実に丁寧な「振り返り」がなされ、その結果を踏まえた真摯な取組がなされてきたことを如実に示しているものと思う。 ・職員による評価及び学生による評価、外部学校関係者による評価を実施し、適切に運営されていると思われる。 ・昨年は8月に学校関係者評価委員会を開催し、前年度よりも早い段階で学校運営に反映していただくことができた。今年は7月に開催することができたため、さらに早期の段階から学校運営に活かしていけることを期待したい。 ・自己評価点は4.7点と、昨年と同様に評価項目の中で最も高い評価となっていた。また、学生からの評価についても、ほとんどの項目で前年度よりも良い評価となっており、これまでの先生方の丁寧な取り組みの積み重ねが、成果として表れているのだと思った。 ・学校全体で組織目標を共有し、学校運営につなげることができた。また、各学科におけるトラブル等にも迅速に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営については、引き続き、学校運営計画に基づき運用し、学校評価（教員による自己評価、学生による学校評価、並びに学校関係者評価）を行いながら、PDCAサイクルにより改善させていく。 ・学校運営について、教職員全員が共通認識できるよう、学校運営計画や学校評価の取り組みについての内容を新規採用者や異動者のオリエンテーションに組み込んでいく。
2 学科運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身の評価が高いのは、意識がしっかりしているからだと感じる。その中で、できていないと自己評価している学生がいることが大事で、改善する点を探すことができると思う。 ・看護系学科での新カリキュラムによる学生の卒業時の能力評価（看護観を含む）・分析の結果は期待するところ。ぜひ取り組み、カリキュラムに対する評価について、ぜひ聞かせていただきたい。 ・他の学科や他校を交えた合同授業に取り組まれたり、学科の枠を超えた授業参観を実施されたりするなど、より質の高い教育に向けた実践がなされていることがわかる。 ・ストレスの比較的高い学生のサポートを含め、学生一人一人に目を向けた、きめの細かい支援体制の構築に注力されており、そのことがまた次年度（令和7年度）の新たな組織づくりにつながったことが窺われた。 ・それぞれの学科で、卒後きちんと社会で役立つ医療人としてのきめ細やかな対応がされている。 ・授業アンケートを実施し、その結果を学科内で共有することで、次年度の教育内容や教育方法に活用されているほか、学生の負担軽減を目的として、実習記録の見直しや教員による巡回・見守りの強化、声かけなど、さまざまな取り組みが行われていることがわかった。 ・各学科、学科運営計画に沿って適切に運営できている。また、教育面では、授業方法を工夫し、授業評価を適切に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価は、看護学科をはじめ歯科系学科においても計画的に進める。また、取り組み状況を共有することで、それぞれの学科が効果的な評価方法を取り入れるなど、取り組みを促進する。 ・学科運営は、各学科運営計画に基づき実施する。学生の授業（講義・実習）アンケートを行い、学習・教授活動の見直しを行いながら、現代の学生の特性やニーズに応じた関わり方や教育方法を検討していく。 ・授業についての支援だけでなく、日常生活や精神面の支援など、学生の日常生活をよく観察し、気になる学生への声掛けを引き続き行い、必要な支援につなげていく。
3 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"> ・技工学科が3年連続で入学者が伸びているのは良い。定員を目指していただきたい。 ・大学とは違う専門学校の利点を示していけるとよい。 ・教育委員会の中川委員のお力もお借りして、中学生への出前授業等で、看護職への道（多様な場所での働き方）をPRできると良い。 ・定員をどのように設定するのかは、一方で少子化の進展を見据えながら、他方で医療関係従事者の不足を考える必要があり、なかなか難しい問題であると思う。そうした中で、募集要項の工夫や学校訪問の充実など、志願者増に向けた多くの取組がなされており、功を奏していることがわかる。 ・他の大学や専門学校と比べると施設環境などどうしても不利な部分はあるが、懸命に入学者確保に力を入れられている。ぜひ社会人が生活に困らなく資格が取れるようなシステムにて、多くの医療人の育成を期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学生の確保対策については、最近の若者がSNSを使った情報収集を行う傾向が強いため、SNSによる広報を拡大している。それらの評価を行いながら、今後も本校の強みについて、（授業料等の費用負担が少ないことだけでなく、国家試験の合格率の高さや、多学科併設による協同学習の実施など）発信していけるよう、様々な方法を検討していく。 ・定員をどのように設定するかについて、少子化の進展を見据えながら主務課と連携を図り検討を進めていく。

評価項目	学校関係者委員からの意見	意見等に対する今後の手立て
3 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"> ・入学志願者数や入学者数は目標には達していないものの、高等学校訪問やオープンキャンパスに加えて、Instagramの開設など、新たな取り組みに積極的にチャレンジされており、目標達成に向けた努力されている様子が伝わってきた。入学者の確保は今後も課題となると思われるが、本校の魅力を伝える機会が増えると良いと思う。 ・2年連続国家試験100%は素晴らしいと思う。 ・全ての学科において令和6年度国家試験合格率が100%であることは、それだけ丁寧な指導がなされていることの証左でもあり、御校の「強み」として高校生等に大いにアピールできる成果であると思う。 ・令和6年度はすべての学科で国家試験合格率が100%という素晴らしい結果であり、先生方のサポートの手厚さが表れていると思う。今後も合格率100%を目指して、今のような取り組みを続けていただきたい。 ・人材確保・就業対策部会を中心に、入学生確保や卒業生支援への取り組みを行うことができた。特に卒業生支援については、これまでの取り組みを評価し、より効果的な方法を検討し実践することができた。 	
4 学生生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が少ない分きめ細やかに対応ができる点、親身に学生に対応されている様子がうかがえる。 ・スクールカウンセラーは素晴らしいと思う。 ・ストレスチェックの新たな実施や、スクールカウンセラーの働きかけなどにより、「こころの相談室」の利用者が増加したと考えられるとのことであり、何か相談事のある学生にとって、相談できる機会やチャンネルが増えることは安心感に繋がっているものと思う。 ・こころの相談室の利用者数は前年度の約3倍に増えており、カウンセラーからの声かけや、申し込み方法の変更により、以前よりも利用のハードルが下がったのではないかと感じた。学生が安心して相談できる環境があることは、大変心強いと思う。 ・学生指導においては、引き続きストレスチェックや生活実態調査などを実施し、その結果を踏まえたきめ細かな対応を行うことができた。「こころの相談室」についても、スクールカウンセラーから直接勧めがあることから相談者が増えたことは、自分から声を上げることのできない学生への支援につなげることができたと言える。 ・Z世代の学生が増えるなかで、教育方法にも柔軟な対応が求められる場面もあるかと思うが、学生一人ひとりの強みを引き出しながら、より充実した学生生活が送れるような支援が続いていくことを願っている。 ・卒業生と語る会や学科との連携授業などは、これからもっと必要になる。 ・就職先などのアドバイスに関しては、卒業したての卒業生だけでなく、5年目や11年目の卒業生の話もあると良いと思う。また、特徴を持った医療に従事する卒業生の話も参考になると思う。 ・進学や就職に関するフォローについては、十分ではないと感じている学生もいるようなので、学生の声を取り入れながら、よりきめ細かなサポートが行われると良いのではないかとと思う。 ・自分の学校では、こんな授業も実習もあったなど、特別なものを売りにできると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活の支援体制については、学生に入学時より周知し、支援が行き届くようにする必要がある。R7年度は、年度始めのガイダンスにおいて「こころの相談室」だけでなく、「コーディネーター」や「校務総括」の存在についても紹介している。また、速やかに保護者との連携が取れるよう、年度初めに保護者向けの文書を渡しており、適宜、連絡したり面談を行っている。 ・スクールカウンセラー（SC）による「こころの相談室」については、複数の方法での申し込みが可能になったことで利用しやすくなっている。今後は、さらにプライバシーを守り安心してカウンセリングが受けられるよう、SCの意見を確認しながら、環境整備を進める。 ・ストレスチェックは、今年度も引き続き3回／年実施する。結果に応じてSCの助言のもと、カウンセリングを進める。また、SCとの情報共有・連携をとりながら学生への適切な支援につなげるようにする。 ・就職支援については、学科ごとで求人情報の収集方法等に特色があるため、学生のニーズが異なる可能性がある。各学科で就職支援に関する学生のニーズを把握し、取り組んでいく必要がある。
5 教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に勉強されていると思う。新しいことや新しい知識を取り入れることは必要に思う。 ・各学科において、それぞれ実施に当たっての制約やカリキュラムの改訂など諸般の事情はあるものの、教職員の育成に向けた取組が着実になされていることが窺われる（「報告書」資料13）。そのことは学生による授業評価結果において極めて高い評価が得られていることからよくわかる（「報告書」資料18）。 ・教員が欠員にて動いているところもあり、忙しい中でもそれぞれが研鑽に励まれている様子、余裕を持って仕事ができる環境が整うことを願う。 ・すべての学科で国家試験の合格率が100%であり、先生方のご指導の質の高さを改めて感じた。 ・授業参観、研究活動への取り組みについては、今後も工夫や改善が求められる課題の3つであると思う。 ・授業参観については、学校の特性を活かした学科間での授業参観や、他校と連携して授業参観を実施するなど積極的に取り組むことにより、教員の質の向上に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のキャリアラダーに基づき、自己評価・他者評価を受けながら、自己の課題を見出し、成長に向けて研修計画を立てている。しかし、キャリアラダーの活用については、県職員としての業績評価や能力評価と合わせて行っていく必要があり、それらとの連動を持たせた運用上の課題がある。そのため、今年度キャリアラダーの運用方法の見直しを行うとともに、同時に内容の見直しを行い、現状に見合ったものに変更していく。 ・授業参観は、引き続き計画的に実施するが、新たな取り組みとして、今年度は第二看護学科において、学校以外の外部施設職員（地域包括支援センター）に授業参観について案内し、授業内容や方法について講評をいただき、さらなる改善につなげていく。

評価項目	学校関係者委員からの意見	意見等に対する今後の手立て
6 管理運営・財政	<ul style="list-style-type: none"> ・よくできていると思われる。 ・不審者の侵入に対しての監視を含めた防犯体制は、重要な課題であるため。早急に取り組まれるとよいと思う。(さすまた？ありますか？) ・限られた財政の中で、工夫して運営されている。学生の意見や要望も聞く機会を設けてあって良いと思う。災害・防犯対策等継続的に実施の必要はある。 ・今後は災害対策やハラスメント防止対策に加えて、防犯体制の強化にも取り組み、学生がより安心して学校生活が送れるような環境づくりをお願いしたい。 ・新入生と語る会において出された学生の意見を受けて、軽食を含めた自動販売機の設置が計画されるなど(実際に令和7年度設置)、利用者目線から施設設備の充実が図られることは重要なことと受け止めた。こうしたことが学生自身の学校運営に対する興味関心を高める契機にもなると思う。 ・学生からの意見に対してフィードバックがなされており、とても良いと感じた。 ・QRコードを読み取りアンケートに答えられるようにされたとのことだが、回答率が減少したという点から、より多くの学生の声を集めるためにも、アンケートの実施方法について検討していく必要があるかと思う。 ・学校に対する意見を受け、新たな取組みや改善策を検討し実践できた。また、学生アンケートについては、学生の利便性を考慮し回答方法を変更した。結果的に回収率が減少したとのことではあるが、減少した理由を明確にし今後の改善につながるとよい。 ・障害学生支援規定等を新たに整備されるなど、合理的配慮等のためのしくみの充実が図られた。このことも、今後その重要性を増すように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策については、今年度中に「さすまた」が設置できるよう、予算の余剰金から費用を捻出し、設置場所を検討する。 ・学校敷地内への関係者以外の立ち入りが確認されたため、学校敷地出入り口に立て看板を設置するなど、日常的に危機管理意識をもち、細かなところから防犯対策の取り組みを実施する。 ・今年度も学生を対象に「学生生活実態調査」や「学校評価」を実施する。Logoフォームの活用により、回答率が低くなっていることを踏まえ、調査依頼の際に調査の目的や調査結果の活用について強調して説明するとともに、学生が回答しやすい期間等を考慮して実施する。
7 施設設備	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に老朽化が目立ち、実習に必要な機械・器具も今の医療に必要なものがそろっていないように思われる。 ・かなり古い施設になるため、特にICT機器使用に関しては不便な部分はあるかと思うが、医療の中にも多くの新しい知識が必要とされるため、さらに設備が整うことを願う。 ・予算面での課題もあるかとは思いますが、Wi-Fi環境が整備されることで、タブレットやパソコンをより効果的に学習に活用できるようになると思うので、ぜひ前向きに検討してもらいたい。 ・どの学科においても最新の設備が揃っているとはいえない状況であるのかもしれないが、そうした制約下にあっても成果の上がる教育活動を工夫されているように見受けられた。 ・限られた予算の中で、可能な範囲で学生の希望に沿いながら学習環境の整備ができた。 ・新入生と語る会において出された学生の意見を受けて、軽食を含めた自動販売機の設置が計画されるなど(実際に令和7年度設置)、利用者目線から施設設備の充実が図られることは重要なことと受け止めた。(再掲) ・令和7年度より新たなシステムが導入されるとのことで、今後、業務のスリム化やペーパーレス化の促進などの効果、そして、学生の学習効果の拡大に期待したい。 ・図書室の利用促進に向けて、さまざまな工夫がなされていることがわかった。一方で、現代の学生の特性を考えると、図書室の利用をさらに広げていくのは簡単ではない面もあるのではないかと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科に必要な機械・器具については、指定規則に基づき整備はできているが、順次更新が必要である。予算の確保をしていく。 ・ICT機器やWi-Fi環境の整備については、引き続き整備が整えられるよう、主務課と連携し対応を検討する。 ・校務支援システムの運用については、今年度3か年での運用計画を立て、順次進めていく予定である。できるだけ優先順位の高いものから進めていく。 ・学生の学校評価において「学校が寒すぎる」と意見がよせられることについて、主務課と連携し対応を検討する。
8 地域社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは見やすいけど、みてもらえるよう工夫が必要と思う。 ・学校の認知度を上げるため、SNSを取り入れた広報活動も実践しており努力がうかがえる。 ・SNSが若い世代にすっかり浸透していることを考えると、SNSを活用した広報には一定程度の効果があったのではないかと推察する。 ・今年度からXやInstagramが開設され、ホームページ以外のツールを通して学校のPRができていることは、とても良い取り組みだと思う。今後、こうした取り組みが志願者数や入学者数により影響をもたらすことを期待している。 ・通常の授業や国家試験に向けて大変ではあるが、地域活動に取り組まれている。ぜひ学校では学べない多くの体験を積んでほしい。 ・助産学科の「いのちの授業」や、歯科衛生学科の出張授業が継続されていることはとても素晴らしいことだと思うし、大切な社会貢献活動だと思う。職種によっては実施が難しい場合もあるかもしれないが、他の学科でもボランティア活動などを通して地域との繋がりを作っていかるとよいのではないかと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア活動については、主体的な取り組みにつながる支援ができるよう、ボランティア活動の意義を伝え、積極的に学生に情報提供していく。 ・教員が現在行っている小・中学校や幼稚園、地域などへの出前授業は継続して行い、地域貢献していく。